



独立行政法人  国立病院機構

# うれしの

## 第8号

発行所 嬉野医療センター  
佐賀県嬉野市嬉野町  
大字下宿丙2436番地  
印刷 陽文社印刷㈱

NHO URESHINO MEDICAL CENTER

2006.1



写真(上瀬 隆) 「日の出前」

### 患者さんの権利

- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利      | 5 常に人としての尊厳を守られる権利             |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利               |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利         | 7 継続して一貫した医療を受ける権利             |
| 4 プライバシーが守られる権利             | 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

## CONTENTS

- |                                  |                       |
|----------------------------------|-----------------------|
| ② 年頭所感                           | ⑧ 循環器病エキスパートナースに参加して  |
| ③ 病院機能評価を終えて                     | ⑨ 病棟クリスマス会を行って        |
| ④ 地域医療連携室のこの1年間の歩み               | ⑩ クリスマスコンサート・消防訓練実施状況 |
| ⑥ 2006年カレンダー・ボーリング大会             | ⑪ 新人紹介                |
| ⑦ シリーズ「ちけん室コーナー」                 | ⑫ 年男年女                |
| ⑧ 平17年度 保健師 助産師 看護師実習指導者講習会に参加して | ⑭ 外来診療担当医表・編集後記       |

基本理念 「信頼と心のゆとり」



## 年頭所感

病院長 古賀満明

新年明けましておめでとうございます。  
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は医療の質の向上を目指し、職員一同力を合わせて病院機能評価受審に取り組んだ1年でした。結果は2～3ヵ月後に判明しますが、結果の如何を問わず(大いに合格を期待してはいますが)、その受審を通しての全職員の意識改革と合格を目指した努力が、必ずや質の向上をもたらしたものと確信しています。

さて、今年も国立病院機構として、平成20年度までの中期計画期間の折り返しの年に当たります。初年度である平成16年度は順調に滑り出し、年度決算も計画を上回りましたが、人的・物的投資を控えての結果であり、残り3ヶ月となった今年度が真の意味での実勢評価と考えられます。さらに来る平成18年度は中期計画達成の見通しを付ける年でもあり、結果次第では大幅な修正を余儀なくされることも覚悟する必要があります。

本院は平成16年4月国立病院機構嬉野医療センターとしてtake offして以来、これまでの1年9ヶ月順調に上昇気流にのり、収益成長率は九州の国立病院機構の病院でもトップクラスを走っています。その結果、計画よりも早く予定の飛行高度に達しました。すなわち経営管理指標の1つである一人1日診療点数では、全国同規模病院18施設(350床～499床)と肩を並べました。これからやっと水平飛行に移り、目的地である「信頼と心のゆとり空港」へ向け、安全で安心な飛行を続けていきたいと考えています。しかし、行く手には悪天候と、時には乱気流も予測されています。

その1つは来年度実施される診療報酬の大幅な改訂です。すでに過去最大である

3.16%の切り下げが決定しています。

改訂の中身を分析し、わが国の置かれた医療環境・経済環境を考慮しながら、平成18年度からの急性期包括医療(DPC)参入を含め、先見的病院運営に当たっていきます。さらに、当院では年中行事である4月と6月の人事異動があります。特に医師群はこれまでにない大掛かりな異動が予定されています。この乱気流を乗り越えるのは、嬉野の地と嬉野医療センターを愛する気持ちと全職員のチームワークが必要でしょう。必ずや苦難を乗り越え、我々が理想とする病院へ一歩ずつ近づけると確信します。

このような厳しい環境の中、嬉しいニュースもあります。その第1は放射線科、リウマチ内科、消化器科(肝臓)の3診療科での定員増が確定しました。それ以外の診療科においても地域のニーズに合わせた増員交渉を継続しています。それにも増して、医師としての第1歩を経験する病院として、わが病院を選択してくれた医師達(研修医)が、新たに5名増え、計7名に達したことです。当院を選択してくれたことに、私自身喜びと責任を強く感じています。さらに今年度は新研修医制度の初年度に当院で研修をスタートした医師を、自信をもって世の中に巣立ちさせます。このような研修医の養成は、我々国立病院機構が担うべき4大事業の1つであり、当院もその役割を大いに担いたいと考えています。

第2として、2年越しの念願であったMRIの更新が決定したことです。これで検査時間が大幅に短縮され、患者さんの負担が軽減されるとともに、病院情報システムに連結可能となり、オーダリング端末からの参照、ならびにフィルムレス化への道が

開かれました。この2年間 MRI 更新のため緊急機器整備以外の医療機器の整備を控えていましたが、来年度から効率かつ効果的な更新および新規導入を検討していきます。医療情報システムの分野では、今年度の事業計画で予定されていた看護支援システムを年度内にスタートさせ、その際リストバンドによる患者認証システムの導入を決定しました。さらに来年度当初にかけて輸血管理システムを稼働させ、安全で安心な医

療の提供体制を強化します。

最後になりますが、私自身が第81回日本消化器内視鏡学会九州支部例会の会長を引き受け、第87回日本消化器病学会九州支部例会会長の佐賀大学医学部藤本一真教授と合同で、6月佐賀市での開催が決定しています。是非、この学会でも嬉野医療センターの名を広めるとともに、更なる発展を願っています。地域医療機関ならびに職員の皆様のご協力とご尽力をお願いする次第です。



## 病院機能評価を終えて

副院長 河部 庸次郎



11月28日から30日までの3日間、病院機能評価の訪問審査が行なわれました。7人のサーベイヤーは皆素晴らしい程に詳細で、チェックすべき項目は全て網羅すべく綿密に徹底した審査が行なわれた。職員の皆さんは十分に準備をしたと思っているつもりでも、実際に何らかの指摘を受けると疑心暗鬼になってつい口ごもってしまう場面も見られました。サーベイヤーの意味ありげな確認に対する返答にはどのように答えるべきか、かなり迷わされる場面もしばしばありました。また、サーベイヤーと議論になるようなところもあり、この3日間は精神的緊張と相まって、全体的に興奮した状態であったことと推察しました。私も一種の興奮状態でこの3日間を過ごしたと思っています。中でも最も緊張した場面は2日目の最初の合同審査で、まず、第1領域から質問が始まっていきましたが、院長先生が的確にまた院長先生の理念の下にお答えいただいた事によりこの合同審査の最大の山場を無事過ぎることが出来ました。病棟におけるケアプロセス（第5領域）も比較的順調に審査が進みました。サーベイヤーの質問は結構ヤマをはずしたところが多かったのですが、東4病棟も東3病棟も無事審査を乗り切ることが出来たようです。また、西2、西4病棟も順調に進んだと聞いております。3日目の12時15分より全体の講評でしたが、それぞれの領域で

各々細かい部分を一つ一つ丁寧に指摘されました。聴いていた職員は、やや厳しい評価に少し惘然としたところもあったようですが、講評の後サーベイヤーの一人から「死角はなかったよ」といわれて、決定的な指摘点はなかったものと（実際評価がCになるようなものはなかった、と思っています）思い、後は評価機構内での判断と全てを託して3日間の訪問審査を終えました。あっという間の三日間でしたが、それまでの過程を含めると長い長い3日間でした。機能評価受審に関してはまだまだ沢山書くべきことがあります。紙面の都合も考え、最後に大石庶務班長を中心に作成しましたハンドブックを紹介してひとまずは、皆様ご苦労様でした。





# 地域医療連携室の この1年間の歩み

遠野医療センター地域医療連携室長  
岡 忠之

2004年8月2日に地域医療連携室が当院に開設され、1年4ヶ月が経過いたしました。

そこで、地域医療連携に関するこの1年間の歩みを、反省をこめて述べたいと思います。

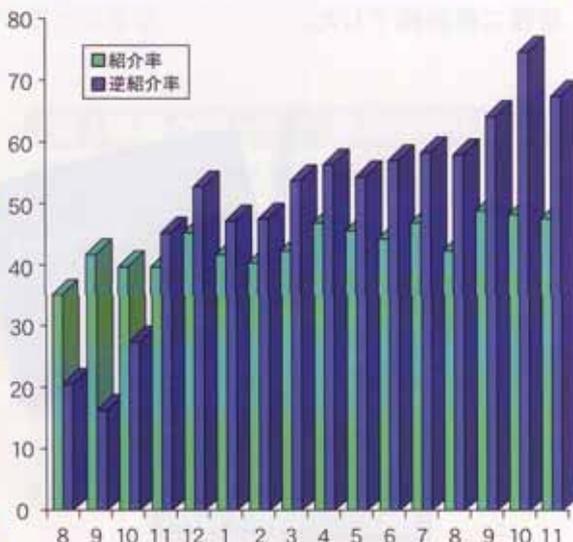
地域医療連携室は、次の5つを主な業務としてスタートしました。

1. 新患紹介患者の診療予約受付
2. CT、MRI、RIなどの放射線検査や内視鏡検査の予約受付
3. 受診状況のFAXによる報告
4. 積極的な逆紹介
5. 地域医療連携推進セミナーの開催

連携室の最も重要な業務は、前方連携としての新患紹介患者の診療予約受付です。

新患紹介患者を待たせずに診療を行い、紹介患者の増加を目指しました。しかしながら、開設当初は事務手続きの不慣れ、また思いもよらなかった通信機器の不具合もあり、紹介先からお叱りの言葉をいただいた事もありました。事務担当者が、今にも泣き出しそうな顔で

地域支援病院紹介率・逆紹介率



私にこれらの報告をしてきた頃のことが懐かしく思い出されます。

私も不安を抱いてのスタートでした。幸いに事前紹介患者数は増加し、今年の6月以降は200を上回るようになりました。しかし、事前予約なしの紹介患者も半数あり、地域の医療機関のご意見をお伺いしながら、受付業務の改善に取り組み、事前予約新患数を全体の8割を目標として、診療予約制度の更なる推進を図りたいと考えています。

地域医療連携の中で当院が目指したのは、紹介患者の増加もありますが、それ以上に、当院での急性期治療を終わられた患者を、紹介医へお返しする“いわゆる逆紹介”の推進でした。図にありますように、地域医療支援病院の紹介率は約50%となり、また逆紹介率は最近では65%を超えました。逆紹介のこれまでの推進策として、入院時における治療計画に、退院後の紹介先への通院の方針を含めることや、入院初期の段階で、医療ソーシャルワーカーに転院先の調整を依頼することなどが挙げられます。この実績を踏まえ「地域医療支援病院」としての資格条件を満たし、近い将来においてその認定を受けるべく努力する所存です。医療機器の共同利用として、放射線検査と内視鏡検査の予約業務を行ってきました。1年間の検査依頼総数は907件で、CTを中心として毎月70件以上のご利用をいただいています。放射線科医の読影所見を当日お渡しし、紹介医からも高く評価を受けており、今後とも医療機器の共同利用をお願いする次第です。受診状況の報告と、紹介していただきました医療機関への当院の主治医からの返書に関する管理は、医療連携においては非常に重要です。

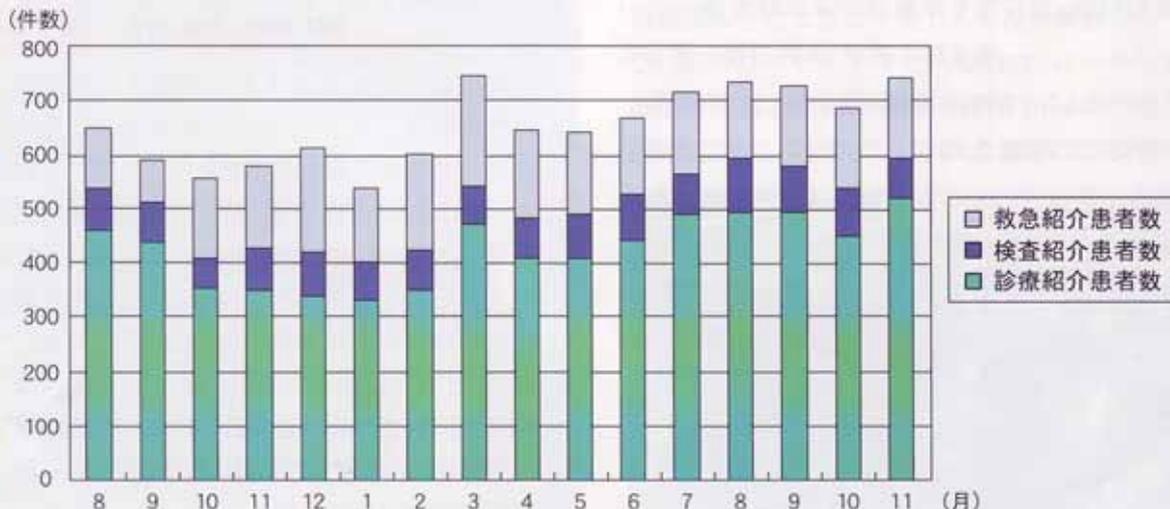
連携室では外来受診報告書、入院報告書、退院報告書など6種類の受診状況の報告書を用意し、そのつどFAXにより紹介医に報告してきました。返書が出されていない場合には、連携室から主治医に督促状を発行し、もれがないように努力しています。図からわかりますように、連携室で文書管理する患者の数は1ヶ月に約700名であり、オーダリングを駆使した作業とは言え、連携室の担当事務官には頭が下がる思いです。今後も報告書に関しましては、皆様からのご意見をいただき、改善していきたいと思っています。

地域医療連携室の開設に引き続き取り掛かったのが、「開放型病院の制度」の確立でした。鹿島藤津地区医師会、武雄杵島地区医師会のご協力を得て2005年4月1日に「開放型病院」としての認定を受けました。本制度の病床として5床を申請し、現在55名の先生方にこの制度へ登録をさせていただいております。当院へ来られ、実際に診療されたある先生の感想として「白衣を着て堂々と病棟で診療できた」との言葉がありました。またある患者が「先生にわざわざ病院へ来てもらって診察していただき有難かった」との感想を述べておられました。しかしながら、本制度のこれまでの利用実績は少ないのが現状で、今後医師会の先生方に積極的にこのシステムを利用して、気軽に当院に来て診療をしていただきたいと思っています。

地域医療連携の側方連携として、地域の医療従事者の研修支援があります。当院では「嬉野医療センタークリニカルセミナー」を1年間に19回のシリーズで開催して参りました。すべての診療科が担当し、いろいろな分野での最新情報や、実際の診療にすぐに役立つ情報の提供を行っています。日医生涯教育制度認定講座の3単位を取得する事ができました。他には「嬉野脳卒中セミナー」、「嬉野医療センター感染症セミナー」などがあり、多いときは外部から44名の出席をいただきました。今後も多くの医療従事者にこれらのセミナーに参加していただきたいと思っています。

最後に地域医療連携の今後の課題としては、①前方連携として開放型病院制度の活用の促進、救急医療における役割の分担、②後方連携として逆紹介先としてのバックアップ医療機関の確保、③側方連携として講演会やセミナーの企画による研修支援の強化が挙げられます。今後、地域の中核病院として皆様に信頼され、高度の医療を提供し、また「地域完結型の医療」を目指して、その一翼を嬉野医療センター地域医療連携室が担っていこうと思っています。今後とも地域の医療機関の皆様、そして当院のすべてのスタッフの医療連携室へのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

地域医療連携室での報告書取扱い件数



# 2006年 カレンダー (1月~3月)

医療安全管理委員会 リスクマネジメント部会 看護部リスクマネジメント部会

**なんか変 その感性を大切に** (病4病棟)

「あれ? 変な?」  
「変な?」  
「あれ? 変な?」  
「変な?」

2006年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

横野医療センター

**今年こそそのしつこさが 事故なく** (病7病棟)

「今年こそ、そのしつこさが、事故なく」  
「今年こそ、そのしつこさが、事故なく」

2006年 2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

横野医療センター

**ミスなく 通信と油断と思い込み** (看護部長室)

「ミスなく、通信と油断と思い込み」  
「ミスなく、通信と油断と思い込み」

2006年 3月

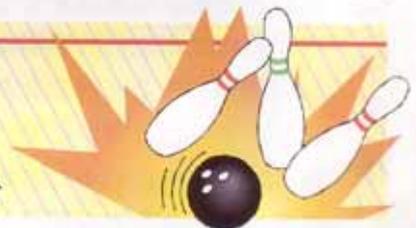
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

横野医療センター



## ボウリング大会

管理課 職員係長 田辺 俊介



病院機能評価も終わり、11月末から12月にかけて行事が次々と詰まっている中、12月5日、6日、8日にわたってボウリング大会を開催しました。今年は全員参加を目指し、院長先生を始め237人の参加という大イベント。日頃の運動不足の解消し、職員間の交流を深め活気のある職場の形成のため委員会で企画した次第です。

ルールは職場対抗3人1チームで2ゲームの総得点の多いチーム(女性はハンディ1ゲーム30点)が勝ちと言うルールで得点を競いました。賞品も多種多様に揃えての準備で大忙しでした。私ごとですが、



ボウリングなら昔よくやったなーぐらいに考えていたのですが、終わってみれば個人優勝ということで、ちょっとびっくり。3日間終わって職員の間で「またやりたい」という声が聞こえた時は、嬉しさで一杯でした。今後もいろいろな企画をやってみたいと思います。

### 優勝チーム 薬剤科

横尾 賢乗・黒瀬 祐子・浦上 如月

私にとって昨年は大きな予想外の出来事が2つありました。一つ目は結婚式当日に福岡県西方沖地震に見舞われたこと、そして二つ目がボウリングの優勝です。ボウリングの結果発表を聞いたときは、本当に感動しました。私は「商品してもらおう」、黒瀬先生は「なんとか引き離されないように」、横尾先生は「副科長の威厳にかけて」と言う各自それぞれの思いがこのような結果を出せたのではないかと思います。

最終的には揺れて、倒れて、地が固まり良い結果が出たのかもしれませんが。

# ちけん室コーナー

治験管理室 CRC 大津・岩永



いよいよ始めました！『ちけん室コーナー』。シリーズ化を目指し、皆様に「治験」についての見解を深めていただきたいと思います。より安全で適正な「治験」を行う環境を整え、患者様にも創薬ボランティアとして「治験」に参加していただけるように、日々奮闘していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 治験の3ステップ

### 第Ⅰ相試験

少数の健康な  
ちけん室コーナー  
成人において安全性  
と体内での働きを調  
べます

### 第Ⅱ相試験

少数の患者様におい  
て病気の程度によっ  
ての効き目や副作用  
を調べます

### 第Ⅲ相試験

最終的にたくさんの  
患者さまにおいて効  
き目や安全性、使い  
方を確認します

厚生労働省に  
承認申請

お薬の  
製造・販売

これから、治験についていろいろなことを、この『ちけん室コーナー』でご紹介していこうと思いますので、どうかおつき合ってください。

新しいお薬はどのようにしてできるのでしょうか？“薬”ができるまでには、長い時間とたくさんの人達の協力が必要です。製薬会社がまず新しい“お薬の候補”なる物質を見つけます。次に動物に対して効き目と安全性を確認します。その次には実際に人に“お薬の候補”を飲んでもらって一番効果がある量はどのくらいか？副作用はどうなのか？本当に効果があるのだろうか？ということ調べることになります。なぜ、わざわざ人で調べなくてはならないのかというと、人と動物では体の仕組みが違って、動物での研究結果をそのまま当てはめることはできないからです。動物ではなかった思わぬ副作用があるかもしれません。本当に効果のある、安全な薬を世に出すためには、実際に人で効果を調べ、正しい評価をすることが必要です。「治験」とは“薬の候補”が“薬”として認められるために行う臨床試験のことです。ただし、治験を行う際にも一番大切なものは患者さまです。治験は患者さまを第一に考え、実施されます。

治験では、“薬の候補”を人に試すことになるため、治験に参加していただく方の人としての権利や安全が最大限に守られなければなりません。それと同時に“薬の候補”の効き目や副作用は科学的な方法で正確に調べる必要があります。そのため、治験の実施に関しては**大変厳格なルール**が国によって定められています。この厳格なルール(GCP)については次回以後にお話したいと思っています。

乞うご期待ください(^o^)/。

## 今回のお題

### 治験ってなあに？

みなさんは「治験」という言葉をご存知でしょうか？多くの方は、聞いたことがないと思います。また、なんとなく知っているという方でも「臨床試験のこと？」「人体実験？」「先生の研究のため？」など、どちらかといえばマイナスイメージをお持ちになっている方が多いのではないのでしょうか。ちょっと待ってください！治験とは新しい薬の開発になくてはならないもので、未来の医療を支えるものなのです。



## 研修会報告

保健師 助産師 看護師

実習指導者講習会に参加して

西3病棟副看護師長 大島 玲子  
西4病棟看護師 峯 晴美

今回私たちは、H17.8.22~H17.10.14(8週間)、厚生労働省九州厚生局主催の実習指導者講習会(九州医療センターにて)へ参加させていただきました。

参加人数は80名(看護師73名・助産師7名)で九州各県より参加していました。

### <研修目的>

看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導が出来るように必要な知識・技術を習得させる

研修への期待・受講目的は、①現代青年の心理とは何か ②学生のレディネスの把握 ③有意義な臨地実習を行うための指導技術や評価方法を学ぶ、と掲げて臨みました。

最初の一週間は、座って講義を受けることに慣れていない為、辛く感じましたが、今回、臨床を離れじっくりと自分を見つめ、看護観・教育観について深く考える機会を得た事は、私達の看護師人生において大きな転機を与えていただいたと感謝いたしております。

実習指導案作成(演習)では、「学問としての臨地実習」の目標の意味から検討し、教材観・学習者観・指導観を何度も何度も考え直し、考えを文字としてあらわす事の難しさを痛感しながら夜遅くまで討議しました。80人の仲間たちとは、実習に関する考え方や、各施設での悩み、家庭の悩みなども含め、人生観などにも触れることが出来たと思います。終了するころは、寂しい思いがする位、楽しく学び多いものでした。

演習が始まってからは、あまり出かけることが出来ませんでした。福岡の町のグルメを満喫できました。お勤めは、西陣の「越後屋のモツ鍋」です。

皆さんも、大いに参加してください。そして、素晴らしい先輩を育てていけるように協力し、看護の質のアップに向けて一緒に頑張りましょう!!

最後に、二人の不在時に業務のフォローをして下さったスタッフの皆さんに感謝いたします。



## 循環器病エキスパートナース研修 に参加して

東4病棟看護師 松野 美佐

11月7日から11日までの5日間、鹿児島県の九州循環器病センターで『循環器病エキスパートナース研修』に参加しました。

研修では、講義・手術見学・ICU及び病棟実習・事例検討会などが行われました。

講義では、循環器疾患の病態生理・診断・治療・リハビリ・看護について詳しく学び、心工

コー・心電図・心臓カテーテル検査などの循環器分野における検査や処置についても学びを深めることができました。講義は自分が持っている参考書や資料よりも深く詳しい内容であり、自分の勉強や知識の再確認ができました。しかし難しい内容もあり、いかに自分が学習不足・知識不足のなか日頃の看護に臨んでいるかというのを改めて





# クリスマスコンサート



西4病棟看護師 松本 智子

12月11日にクリスマスコンサートを行ないました。私は司会を担当しましたが、年に2回行なっているボランティアコンサートを楽しみに来ていただいている方も多いようです。コンサートでは聴きにきて下さった方と演奏者、その両方が楽しめるように、選曲から工夫をこらしています。今回のクリスマスコンサートでは計屋先生がサンタさんに変装したり、いつものコンサートより多くの曲を皆さんに合唱してもらったりしました。たった1時間ちょっとの短い時間ではありますが、



音楽の力で心が癒されコンサートに参加してくれた人の心の中に残る貴重な時間となっていればいいなと思いました。この文章を読まれた方で興味を持たれた方は、ぜひ、次回の夏のコンサートにおいて下さい。きっとひとときの癒しの時間になると思います。最後にコンサートを行なうにあたり協力して下さった沢山の方々に感謝いたします。

## 消防訓練実施状況

管理課庶務班長 大石 清吾



当院では夜間想定・昼間想定で年2回の防災訓練を実施しています。

病院では初期消火と併せ、患者さんを如何に安全な場所に避難させるかが重要であることは言うまでもありません。

12月19日に実施した訓練では、西病棟の4階休憩室から昼間の出火を想定して行いましたが、東西4階病棟職員の対応は非常に緊迫感があり、(模擬)患者さんへの避難説明やシート等を使用し素早く救出体勢を取ることが出来ていました。

しかし初期消火については、息を切らしながら火元に駆けつける職員もいる反面、出火場所はどこですか〜とマイペースで落ち着いて到着する職員もいるなど、職員間に訓練に対する温度差がありました。

また消火器の操作可能時間は15秒前後で有る

ことを知らず、どれくらい消火器のホースを握りしめておけばいいのだろう・・・と戸惑う職員もいました。

消防署長さんからの講評にもありましたが、繰り返し訓練を行い体で覚える事の重要性を感じた次第です。

最後に寒風の中訓練に参加された皆さんお疲れ様でした。



# 新人紹介



## 脳神経外科医長

宮園 正之



12月1日より、脳神経外科に赴任いたしました宮園で

す。専門は脳血管障害、脳腫瘍、脊椎脊髄、機能外科（顔面痙攣、三叉神経痛に対する神経血管減圧術）です。てんかん・小児奇形以外のあらゆる脳神経外科領域の手術を行っておりますので、お気軽にご相談下さい。尚、日本脳神経外科学会専門医・日本脳卒中学会専門医・日本脊髄外科学会認定医を取得しております。

さて嬉野に来て半月がたとうとしています。着任早々に重症くも膜下出血が一日おきに3例立て続けに入り、全例緊急手術になりました。お陰様で3症例とも経過は良好です。そのかわりICUが満床になり皆様にご迷惑をおかけしております。もう少しすれば脳血管攣縮の時期を終えICUを離脱出来ると思います。ICUの他に脳神経外科術後が診ることのできる観察室のような場所が早急に必要ではないかと思いますが、現在あるハード面を最大限活用し、これまで積み上げてこられた実績をさらに延ばしていけるように鋭意努力していきたいと思っております。皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 診療情報管理士

副島 恵



10月より病歴係に勤務しております副島です。診療情報

管理士として専任で働くのは初めてなので戸惑うことも多く、周りの方々にご迷惑をおかけしているかと思っております。まずは環境や日常業務に慣れることを目標に努めていきたいと考えています。皆様ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



## 西1病棟看護助手

梶原由美子



人生の折り返し地点に立ち、今、自分がしたい事ややりたい事が、病気の方や年をとった方々に少しでも役にたきたいということでした。そして今年、ヘルパー2級をとり、5年前第3子を産むときにお世話になった西3病棟で、お仕事をさせていただく事となりました。不安でいっぱいでしたが、顔見知りのナースの方々もいらっしゃり少し安心いたしました。これからがんばります。宜しくお願いいたします。



## 手術室看護助手

尾崎 秋江



10月より勤務させていただいております。幼少の頃からなじみのある病院で働けることを嬉しく思っています。慣れないことばかりですが、どうぞ宜しくお願いします。



## 西1看護助手

福田 弘美



病院勤務は初めてです。

日々、さまざまな医療分野の人々と関わり、患者様とのふれあいの中で楽しく仕事をさせていただいています。

まだまだ未熟な私ですが、1に笑顔、2に努力で周囲の事に手と目と耳で対応し、常に初心を忘れずに皆様のお役に立ちますよう頑張りたいと思っております。

# 年男 年女

## 副薬剤科長 横尾 賢乗



いつの間にか、ゴールまで残り1週の年男を迎えることになりました。先日雑誌を見ていたら、「今年の蠍座は12年に1度の大幸運期。今年のがんばり具合が今後12年を左右する。」とありました。蠍座の年男！新しい世界にも失敗を恐れず飛び込むぐらいの勢いで、最後の1周全力で突っ走りたいものです。

## 診療放射線科技師 藤崎 愛子



放射線科の藤崎愛子です。今年は何年女と同時に厄年なので、まず厄払いに行きたいと思っています。また今年の抱負としては、去年風邪を頻繁にひいたので、規則正しい生活をして健康な一年を過ごしたいと思っています。

## 放射線科事務助手 岸川 浩子



放射線科の受付をしています岸川浩子です。今年で二回目の年女です。今年の抱負は料理ができないのでできるように頑張りたいと思っています。

## 東1病棟クラーク 馬場ゆかり



時の経つのは早いもの・・・今年は何年女！と大声で言っていたのは12年前。今年は何故か小声になっている。否があうでも年はとる。それならば素敵に年を重ねていきたい。そう思える年齢になりました。幾つになってもチャレンジ精神を忘れずに頑張りたいと思います。

## 看護学校教員 原口 博子



年女の抱負「戌年に寄せて」

新年明けましておめでとうございます。私がこの嬉野にご縁を得て、もうすぐ2年になるうとしています。が、「まだ2年しかたってないのか」という気持ちと、「もう2年も過ぎてしまった」という気持ちが入り混じっています。嬉野という土地の居心地のよさに、もっと長く住んでいたような錯覚を覚えています。反面、2年の間にここで私はなにができただろうというあせりを感じています。

皆様方にご迷惑をかけるばかりで、2年過ぎてしまいました。「犬は三日飼えば恩を忘れず」と申します。これからは嬉野の地と、皆様にご感謝し、少しでもご恩返しをしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 地域医療連携室 森 充子



新年明けましておめでとうございます。たくさんの方に支えられて、新しい年を迎えられることに感謝いたします。

今年は何年女。犬は眠で話をするといいですが、大の犬好きの私としてはいろいろな人との出会いを大切に、1年を過ごしていけたらと思っています。

今年もどうぞよろしくお願い致します。



## 副看護部長 川口 真理



## 年女の思い

〇回目の年女となります。  
1回目はもちろん覚えていませんが、その後の年女の時もどんな年だったのかよく覚えていません。覚えていないということは、落ち着いた年だったのでしょうか。

成年生まれのせいか、すぐに「ワンワン」と吠えてしまう悪い傾向があります。今年は、成年の良いところである「好奇心」と「行動力」をのぼし、「ワンワン」と吠えない一年にしたいと思っています。

## 西4病棟看護師 橋口 祥子



## 年女の西4一匹目の橋口だワン!!

今年で4年目となります。今年はず分のやりたいことを見つけ、自分らしく前進していきたいです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 西4病棟看護師 一瀬菜穂子



## 年女の西4二匹目の一瀬だワン!!

3年目となります。今年は1日1日を大切に、成長していけるように頑張っていきたいと思ひます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 西4看護助手 江守野理子



## 「年女」に際して

今年はず年女ということ、良い一年にできたらいいなと思っています。色々な事に挑戦し、頑張っていこうと思っています。こんな私ですが、仕事の方もスタッフや患者様に迷惑をかけないように精一杯頑張りますので宜しくお願いします。

## 東3病棟看護師 岩本 明子



## ☆年女だワン1号☆

基礎クラスも終わり、今年で4年目になります。年女の今年は、絵理香ちゃんに続きさらに寿退職3号に向けて頑張ります(笑) ~2号へ続く

## 東3病棟看護師 豊山 優子



## ☆年女だワン2号☆

今年はず、1日1日が充実できるような一年にしたいと思ひます。年女で何かいいことがあればなあ…例えばあっこに続き結婚4号とかあ~(笑) ~終わり~

## 東3病棟看護師 吉村 彩



## ☆年女だワン3号☆

3年目は泌尿器科のケースを頑張ります。今年はず、〇〇 彩になれるよう頑張るワン!!めざすは寿退職1号(笑)!! ~4号へ続く~

## 東3病棟看護師 中島絵理香



## ☆年女だワン4号☆

新しいことに挑戦していきたいと思ひます。今年はず、ボス彩様に続き、寿退職2号を目指すワン(笑)!! ~1号へ続く~

＊この東3病棟の年女の物語は＊  
＊すべてフィクションです＊



2005. 12. 1 ~

嬉野医療センター・外来診療担当医表

Table with columns for '区分' (Department), '月' (Monday), '火' (Tuesday), '水' (Wednesday), '木' (Thursday), '金' (Friday). Rows include various medical departments like 救急外来, 総合診療外来, 呼吸器科, etc., listing staff names and their schedules.

特殊診療のご案内

救急外来：月曜日から金曜日の8：30～17：00までの救急患者対応を行っています。
内科系：第2・第4木曜日はペースメーカー外来を行っています。
小児科：毎週月・金曜日は一般外来を受け付けています。
外科：① 一般外科 ② 消化器外来 ③ 胸部(呼吸器)外科 ④ 乳腺・内分泌外科
整形外科：毎週火・木曜日は新患のみ受け付けています。
皮膚科：毎週火曜日は、いぼ専門外来を行っています。
泌尿器科：毎月第1火曜日の午後は、ストーマ外来を予約により行ってまいります。
産婦人科：第4木曜日は不妊外来(受付時間13時～14時)
耳鼻科：毎週水曜日午後は一般外来を受け付けています。
歯科：休診中です。入院患者さんで歯科診療の必要が生じた時は、町内歯科診療所、窓口(宮原歯科医院 TEL43-0607)へ往診依頼を行ってください。

編集後記

一時の寒さが少し和らいだようにも思いますが、読者の皆様には如何お過ごしでしょうか。
嬉野医療センター広報誌「うれしの」第8号をお届けいたします。この新聞は院内の諸行事、取り組み、学会、研究会、勉強会などを院内外の皆様にお知らせするために年に4回発行しております。
今号の内容は古賀満明院長から年頭の挨拶をいただき、ついで11月末に終わった病院機能評価について河部庸次郎副院長から、地域医療連携会の1年のあゆみについて岡 忠之診療部長から述べていただきました。
以下「ちけん室コーナー」、「研修会報告」、「クリスマスコンサート」、「新人紹介」、「年男年女」、「外来診療担当医表」などたくさん内容となりました。
どうぞご自由にお手にとられ、お持ちください。ご感想などお寄せいただければ幸いです。